



神戸天然物化学株式会社

**2022年3月期第2四半期
決算説明会資料**

証券コード：6568

2021年11月16日



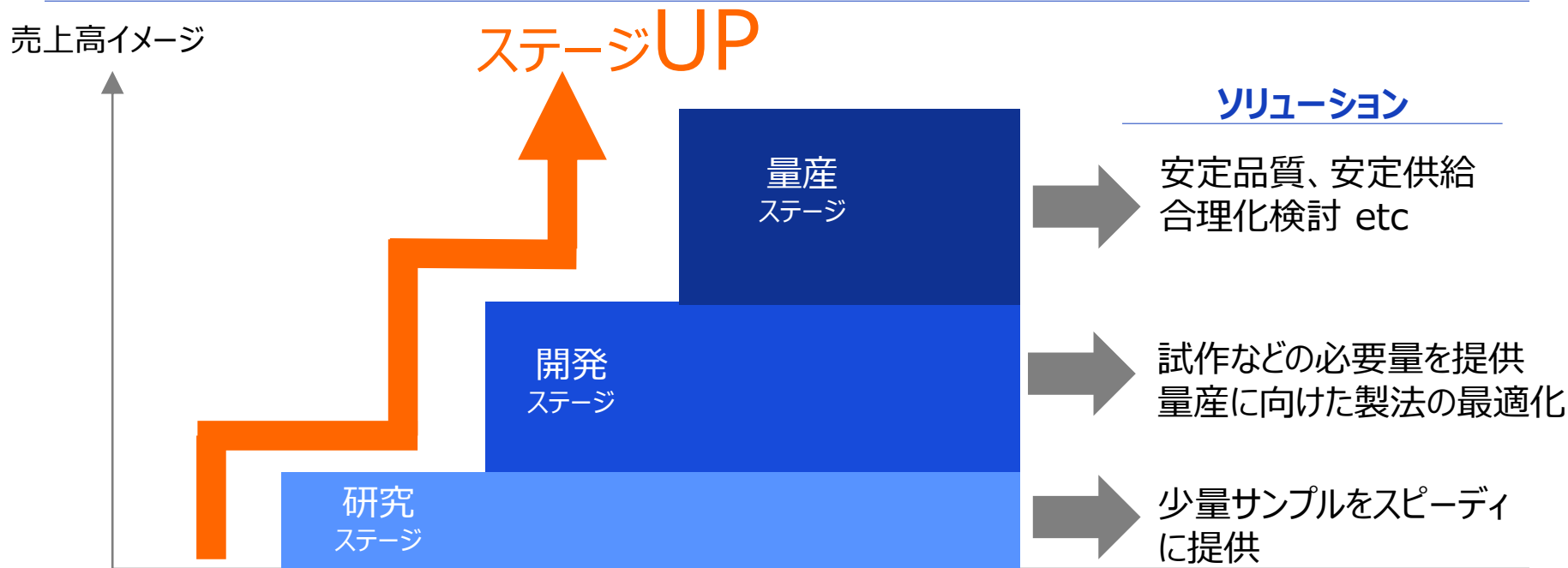
神戸天然物化学のビジネス



有機化合物の研究・開発・量産を受託する先端技術会社

- 事業領域は医農薬中間体、医薬原薬、エレクトロニクス系材料など広範囲。それを有機合成技術とバイオ技術を用いて顧客の商品開発を支援。
- 当社は化学・製薬メーカーの商品開発における「ものづくり」を担当。顧客は機能評価や新規材料開発などに注力。

1つのテーマを成長させ、量産ステージで多くの収益を獲得するビジネスモデル





1. 2022年3月期第2四半期決算実績



2022/3期第2四半期決算におけるポイント

1

前年比で増収営業増益を達成。進捗率は下期偏重型を考えれば想定範囲内。

2

通期業績見通しは11%増収4.8%増益で据え置き。受注は順調で計画越えも視野に。

3

コロナ禍による原料調達の遅延は解消も、海外からの原材料調達に不透明感。



1-1. 2022/3期2Q累計 経営成績

- 対前年では9.7%増収13.3%営業増益。進捗は下期偏重型を考慮すると想定範囲内
- 分野別では、バイオ分野では開発ステージが、機材分野では量産ステージが、それぞれ好調を牽引。医薬分野は下期の出荷集中に向けて在庫の積増しに注力

経営成績の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期		2022/3期		前年同期比	2022/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計	通期見通し		
売上高	6,347	2,590	6,029	2,842	6,700	+9.7%	42.4%
機能材料分野	2,249	1,132	2,150	1,185	2,325	+4.7%	51.0%
医薬分野	2,846	1,108	2,937	1,032	3,020	△6.8%	34.2%
バイオ分野	1,250	348	940	623	1,355	+78.7%	46.0%
営業利益	574	196	635	222	700	+13.3%	31.8%
経常利益	644	228	677	227	710	△0.4%	32.0%
経常利益率	10.2%	8.8%	11.2%	8.0%	10.6%	△0.8pp	—
当期純利益	518	167	399	85	440	△49.2%	19.4%
EBITDA*	1,377	665	1,575	657	1,618	△1.3%	40.6%
EBITDAマージン*	21.7%	25.7%	26.1%	23.1%	24.1%	△2.6pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



1-2. 四半期別経営成績推移

- 2Qのみの業績としては、売上・経常利益共に過去最高を更新。EBITDAマージンは26%超
- 事業領域別でも、機材・医薬・バイオの3領域ともに2Qでは過去最高の売上を計上

	2020/3期				2021/3期				2022/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,012	1,450	1,567	2,317	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866
機能材料	537	552	561	597	494	638	586	432	468	717
医薬	226	763	597	1,260	476	631	566	1,262	228	804
バイオ	249	134	408	459	93	255	173	418	278	344
営業利益	△20	92	260	242	△8	204	99	339	△46	269
経常利益	1	102	281	259	12	215	94	354	△45	273
経常利益率	0.2%	7.1%	18.0%	11.2%	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%
当期純利益	△3	137	193	191	3	164	△5	237	△104	189
EBITDA*	164	279	461	472	237	428	319	590	168	488
EBITDAマージン*	16.2%	19.3%	29.5%	20.4%	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

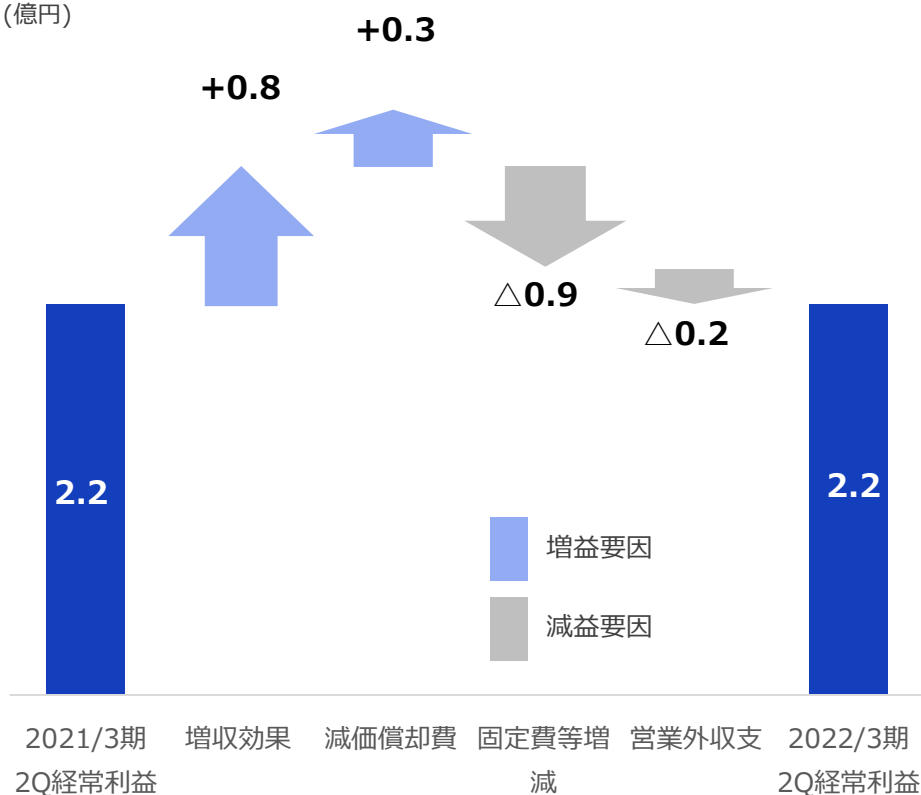


1-3. 2022/3期2Q累計 経常利益増減要因分析

- 開発ステージを牽引役に機材、バイオの売上拡大が貢献。人件費など固定費の上昇を吸収し、営業増益を達成。医薬は量産ステージ順調も、販売は下期に集中する見通し
- ただし、経常利益では助成金収入という特殊要因の消失が影響。前年比では微減

2022年3月期2Q経常利益の増減要因

(億円)



- 増収効果 +0.8億円
機能材料分野：量産ステージ販売が順調
医薬分野：出荷は下期集中のため減収
バイオ分野：開発ステージ好調継続で採算改善
- 減価償却費の減少 +0.3億円
減価償却費 4.3億円
主な設備投資実績 4.3億円
- 固定費等の増加 △0.9億円
人件費 △0.3億円
維持補修費・公害対策費他 △0.5億円
- 営業外収支の悪化 △0.2億円
助成金収入源 △0.2億円



1-4. 2022/3期2Q末 財政状態

- 売掛金回収や未払金支払が進捗。総資産は若干の縮小に
- ただし、在庫は大きく増加。出荷が下期に集中する医薬量産案件で仕掛品在庫を積み増し
- 自己資本比率は81%。財務安全性に変化なし。資金回収も順調で、資金繰りに懸念なし

財政状態の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期2Q	前期末差異
流動資産	4,335	5,137	4,785	△352
現預金	1,476	1,962	1,520	△442
売上債権	1,528	1,141	725	△416
棚卸資産	1,285	1,742	2,405	+663
固定資産	8,435	7,643	7,569	△74
総資産	12,770	12,780	12,354	△426
負債	2,943	2,660	2,330	△329
有利子負債	1,428	1,443	1,263	△179
その他	1,515	1,216	1,067	△149
純資産	9,827	10,120	10,023	△97
負債純資産合計	12,770	12,780	12,354	△426

前期末に膨らんだ売掛金回収進む

医薬量産案件の在庫増

設備投資額：4.3億円
減価償却費：4.3億円

有利子負債は順調に圧縮

設備未払金解消

自己資本比率81.1%

- 営業CFは債権回収の集中した前年上期と比較し大幅に減少
- 投資CFも設備投資の減速、国庫補助金収入などから支払額は減少
- 2Q累計FCFは赤字。下期偏重型の進行に伴い、上期は在庫積増しによる資金負担先行構造に

キャッシュフロー推移

(百万円)	2020/3期		2021/3期		2022/3期	前年同期比較
	上期	下期	上期	下期	上期	
営業CF	△ 548	590	812	514	144	△ 667
税前当期利益	182	522	227	358	126	△ 100
減価償却費	372	430	469	470	434	△ 34
売上債権/仕入債務増減	△ 369	△ 677	998	△ 588	391	△ 606
棚卸資産増減	△ 436	248	△ 560	103	△ 663	△ 102
投資CF	△ 979	△ 883	△ 590	△ 70	△ 212	+377
固定資産取得	△ 1,052	△ 900	△ 587	△ 318	△ 433	+154
FCF	△ 1,527	△ 293	222	444	△ 68	△ 290
財務CF	△ 523	778	△ 424	244	△ 374	+50
借入金増減等	△ 328	778	△ 229	245	△ 179	+50
配当金の支払額	△ 192	0	△ 193	0	△ 193	△ 0
現金、現金同等物の期末残高	991	1,476	1,273	1,962	1,520	+246

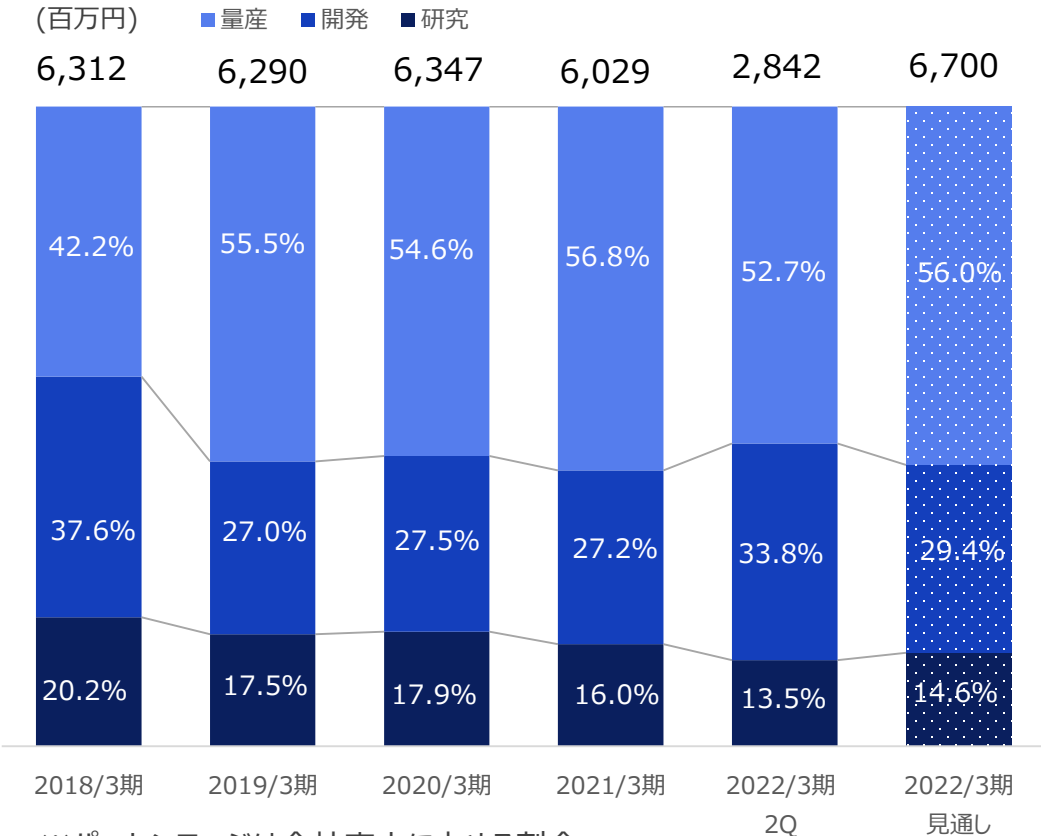
* FCF=営業CF+投資CF で算出



1-6. ステージ別売上高比率

- 2Q累計では開発ステージが好調。売上が集中する下期では量産ステージの伸長を計画しており、下期に向けて開発から量産へ成長ドライバーがシフトする見通し
- 開発ステージは成長ドライバーとなる量産ステージへの入口。現状の開発ステージ好調は当社にとって理想的展開との位置づけ。引続き開発案件の獲得へ注力

ステージ別売上割合推移



- 機能材料分野
 - 量産ステージ中心の展開に変更ないものの、エレクトロニクス関連の開発ステージ案件が増加
- 医薬分野
 - 下期集中の量産ステージ減少も開発ステージが増加。
 - 引き続き、研究・開発ステージ案件の増加に注力
- バイオ分野
 - 開発ステージ好調も成長に向け積極的に取り込む

※パーセンテージは全社売上に占める割合



2. 2022年3月期通期見通し



2-1. 2022/3期見通し

- 通期見通しは従来想定を据置き。下期は対前年12.2%増収、7.5%経常増益を想定
- 対上期においても増収増益見通しとなり、下期偏重傾向は例年通り。特に出荷の集中する医薬分野の伸長が大きいと想定。ただし、当期も4Q偏重となる公算大

2022年3月期見通し（半期別）

(百万円)	2020/3期 下期	2021/3期		2022/3期		下期見通し	
		上期	下期	上期	下期見通し	対前年差異	対上期差異
売上高	3,884	2,590	3,439	2,842	3,857	+418	+1,015
機能材料分野	1,159	1,132	1,018	1,185	1,139	+120	△46
医薬分野	1,857	1,108	1,829	1,032	1,987	+157	+954
バイオ分野	867	348	591	623	731	+139	+107
営業利益	503	196	438	222	477	+38	+254
経常利益	540	228	449	227	482	+33	+255
経常利益率	13.9%	8.8%	13.1%	8.0%	12.5%	△0.5pp	+4.5pp
当期純利益	384	167	231	85	354	+122	+269
EBITDA*	933	665	909	657	960	+51	+303
EBITDAマージン*	24.0%	25.7%	26.4%	23.1%	24.9%	△1.5pp	+1.8pp

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

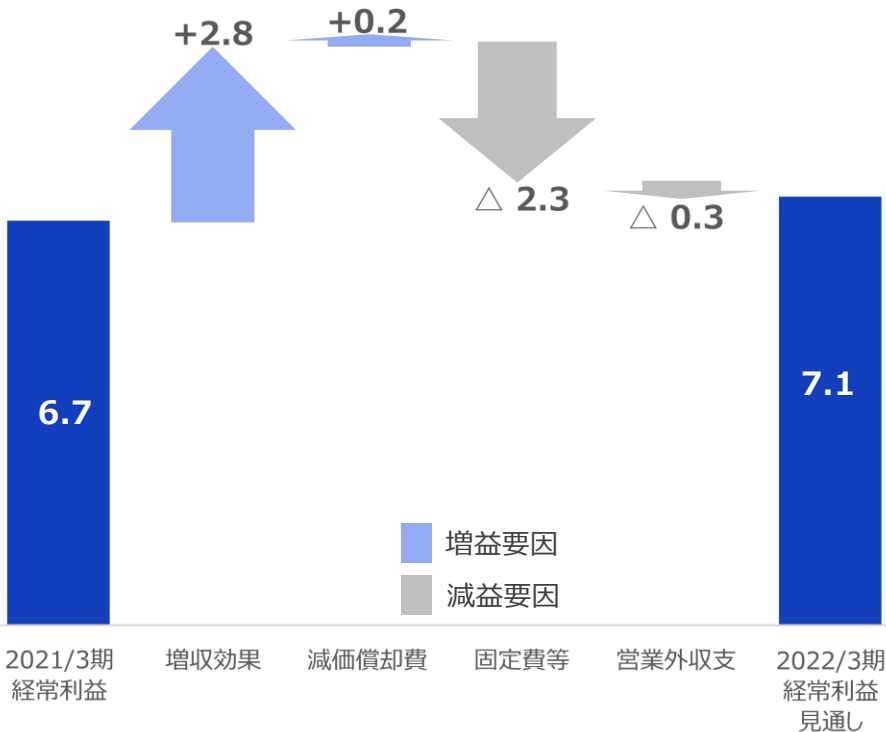


2-2. 2022年3月期 経常利益増減要因分析（見通し）

- 通期経常増益想定を牽引するのは売上増による増収効果。投資一巡などを背景に、減価償却費や研究開発費の減少も下支え要因となり、人件費などのコスト増を吸収する見通し
- リスクはコロナ禍に起因する原材料価格の上昇や原料調達遅延。ただし、既にある程度のコスト上昇は織り込み済

2022年3月期 経常利益の増減要因（見通し）

(億円)



2021/3期経常利益実績

6.7億円

2022/3期経常利益見通し

7.1億円

- 増収効果 +2.8億円
機能材料、医薬分野：需要拡大
バイオ分野：材料調達難緩和により回復
- 減価償却費の減少 +0.2億円
減価償却費 9.1億円
設備投資 7.3億円
・バイオ分野の医薬増産対応
・老朽化設備の更新 など
- 固定費等の変動 △2.3億円
人件費の増加 △1.6億円
その他 △0.7億円
- 営業外収支 △0.3億円



2-3. 需要分野別状況

- ウィズコロナ下での新たな社会的ニーズは、当社にとっても大きなビジネスチャンスと認識
- 機材分野では情報機器向けの需要拡大が、バイオ分野では種々のボトルネック解消が、それぞれ当期の好調を牽引

機能材料分野

+8.1%
増収見通し

- **エレクトロニクス関連(半導体材料、ディスプレイ材料など)**
 - ✓ 情報化ニーズ対応の量産・開発ステージ需要が拡大
- **医農薬関連中間体(薬機法規制外)**
 - ✓ 安定供給及び安定品質の実績評価が浸透し、引合い増加に弾み

医薬分野

+2.8%
増収見通し

- **医薬原薬・医薬中間体関連**
 - ✓ 生産能力増強で案件取組み余力が拡大
 - ✓ 多種多様な品目の生産実績の蓄積から、多様なニーズへの対応能力への評価が浸透

バイオ分野

+44.1%
増収見通し

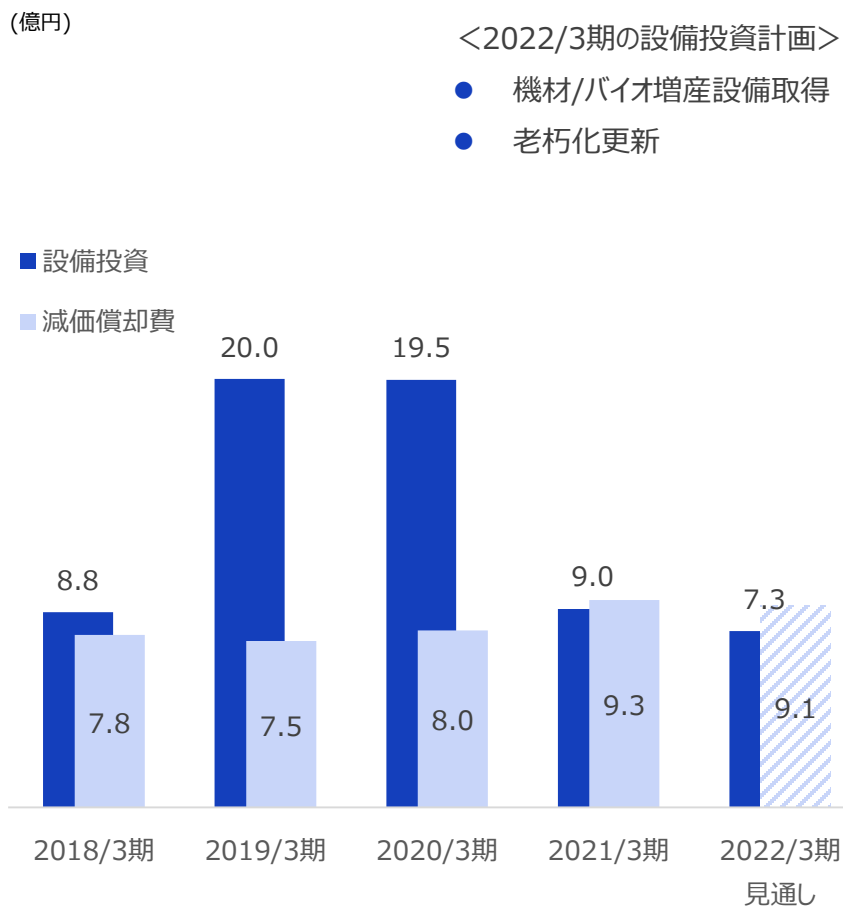
- **医薬原薬・医薬中間体関連**
 - ✓ バイオ関連ニーズは概して幅広く根強い。
 - ✓ 前期発生したコロナ禍による材料調達遅延も足元はほぼ解消。能力面、材料面でのボトルネックは解消



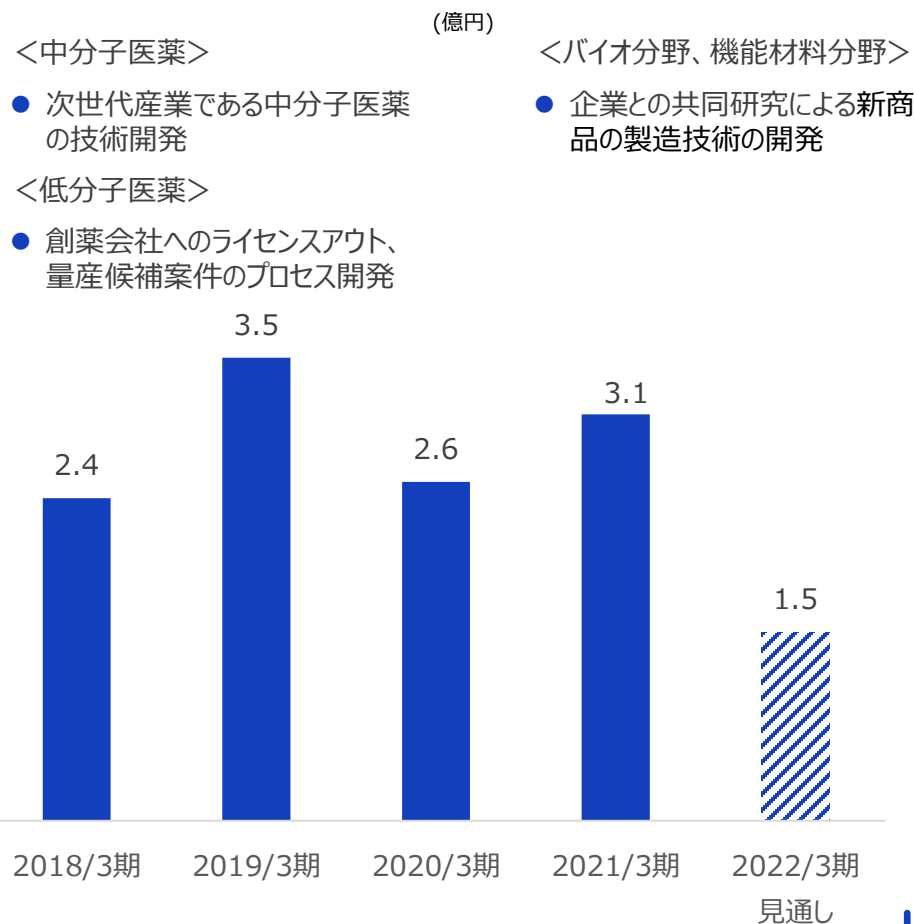
2-4. 設備投資・研究開発動向

- 設備投資・R&Dの2022/3期計画に変更なし。設備投資は機材/バイオ分野の増産対応などを中心に7.3億円
- R&Dは量産候補案件のプロセス開発や生産能力増強を優先。ただし、コアとなる研究開発案件は引き続き継続でR&D費は1.5億円を計画

設備投資と減価償却費の推移(CFベース)



研究開発費の推移

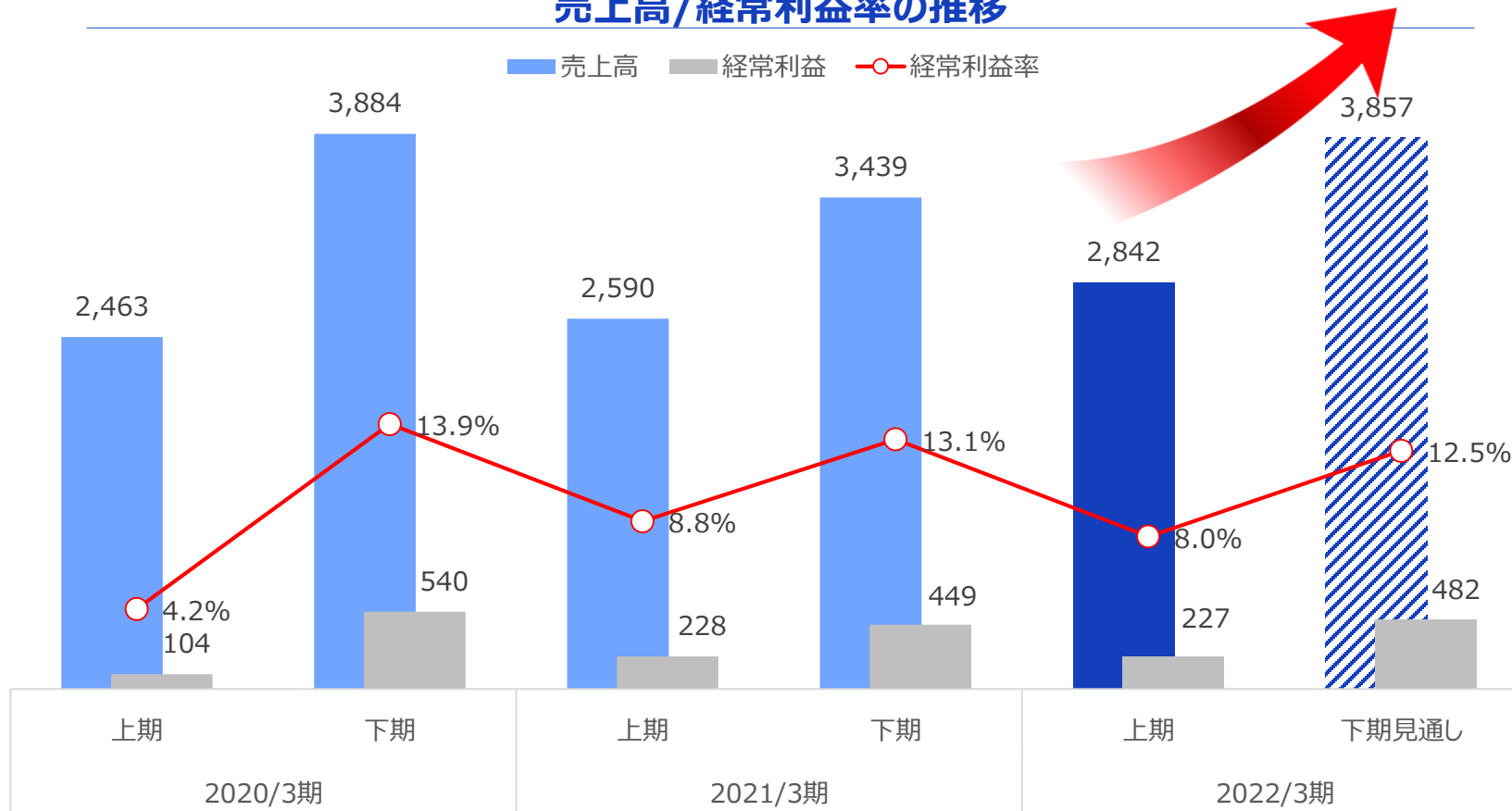




2-5. 下期の展開

- 顧客の開発計画などに起因する下期偏重傾向は近年より鮮明に
- 前期はコロナ禍の影響から下期の伸びは限定的となったものの、今期に入って顧客からの問い合わせは着実に増加。ウイズコロナの状況で予断は禁物ながら、下期の状況には手応え

売上高/経常利益率の推移



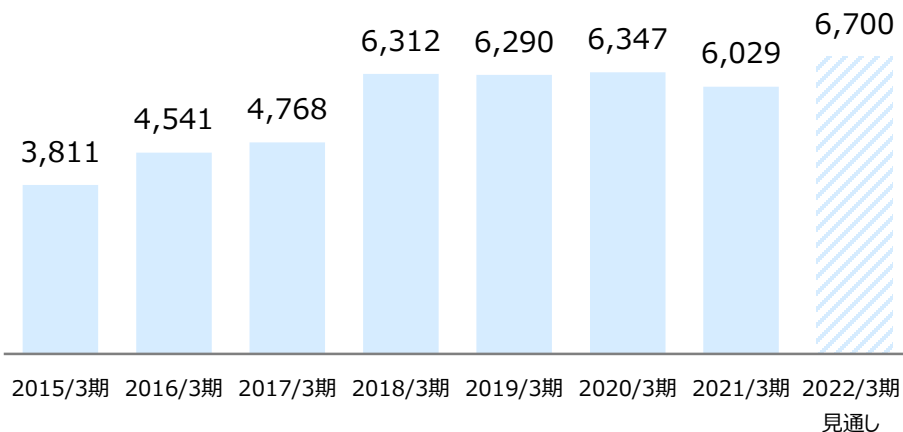


3. Appendix



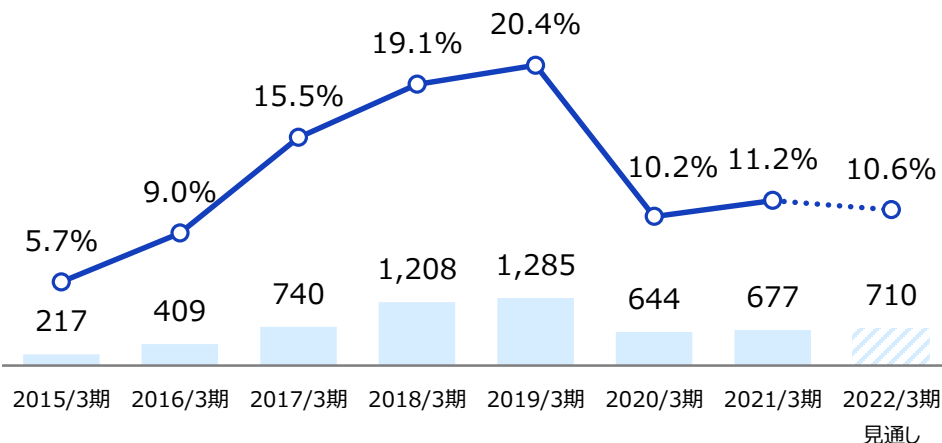
売上高

(百万円)



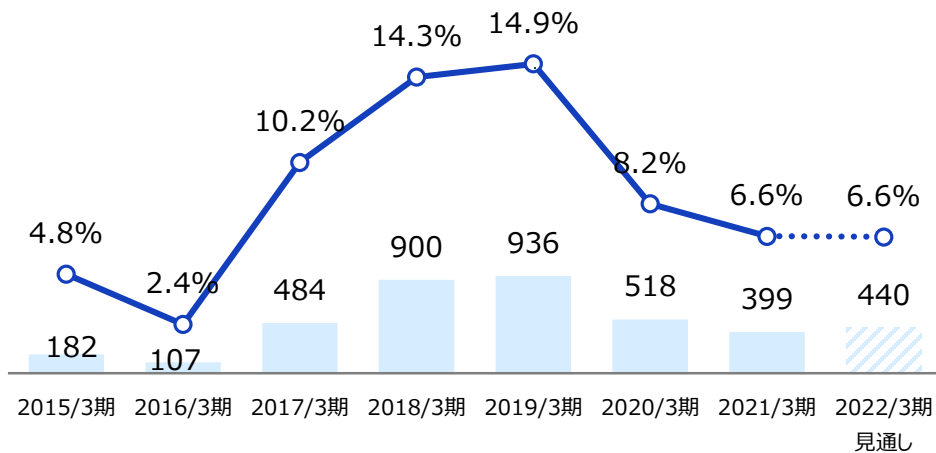
経常利益・経常利益率

(百万円)



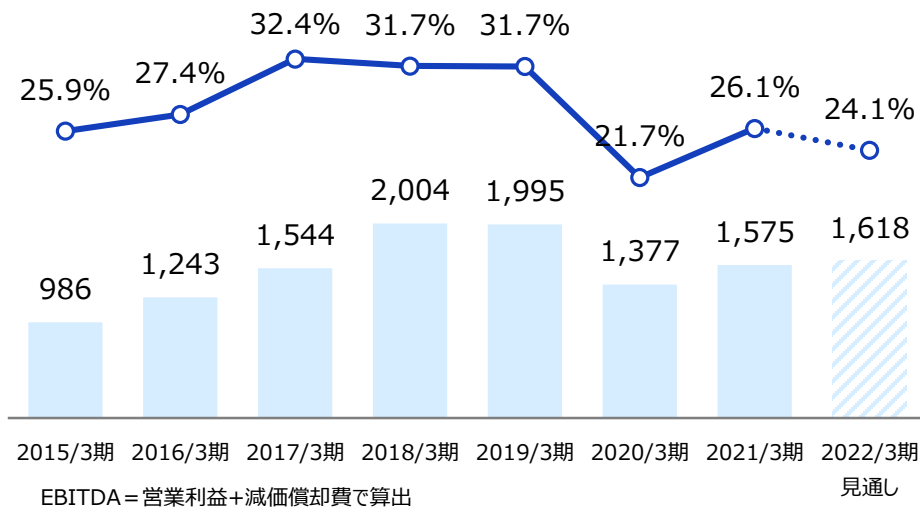
当期純利益・当期純利益率

(百万円)



EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



項目 (単体)	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期2Q
売上高 (百万円)	4,768	6,312	6,290	6,347	6,029	2,842
経常利益 (百万円)	740	1,208	1,285	644	677	227
当期純利益 (百万円)	484	900	936	518	399	85
EBITDA* (百万円)	1,544	2,004	1,995	1,377	1,575	657
売上高経常利益率	15.5%	19.1%	20.4%	10.2%	11.2%	8.0%
売上高当期純利益率	10.2%	14.3%	14.9%	8.2%	6.6%	3.0%
EBITDAマージン*	32.4%	31.7%	31.7%	21.7%	26.1%	23.1%
現金及び預金 (百万円)	1,262	5,413	3,072	1,476	1,962	4,785
有利子負債 (百万円)	3,236	2,256	978	1,428	1,443	1,263
純資産額 (百万円)	4,183	8,736	9,454	9,827	10,120	10,023
総資産額 (百万円)	8,838	12,688	12,002	12,770	12,780	12,354
自己資本比率	47.3%	68.9%	78.8%	77.0%	79.2%	81.1%
配当性向	18.6%	21.4%	20.6%	37.3%	48.5%	—
役員・従業員数	237人	254人	270人	285人	293人	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



研究開発事例 (抜粋)

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子 医薬	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度～ 2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度～ 2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度～	—	—
	創薬手法開発	液-液相分離を正常化する核酸医薬によるFTLD治療法開発	2021年度～	名古屋大学 京都大学	AMED
低分子 医薬	特許出願 ジェイファーマ(株) ライセンス契約	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニン-バソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度～ 2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度～	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度～ 2016年度	神戸大学 等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度～ 2020年度	産総研 等	AMED
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発 (助成事業/委託事業)	2016年度～ 2020年度	キリン(株) (株)竹中工務店 味の素(株) 等	NEDO

- 1985年 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 ● 岩岡工場開設
- 1993年 ● 市川研究所開設
- 1997年 ● 明石市に本社移転
- 2001年 ● 出雲第一工場開設
- 2002年 ● 現在地に本社移転 神戸研究所開設
- 2003年 ● 大地化成株式会社を買収（2010年売却）
中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化 2016年売却）
神戸工場開設
- 2005年 ● KNCバイオリサーチセンター開設
- 2007年 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 ● 出雲第二工場開設
- 2013年 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
- 2014年 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 ● 東証マザーズ上場
- 2020年 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-955-9900 (代表)
knc-ir@kncweb.co.jp